

幼児教育・保育関連トピックス



幼児教育・保育関連トピックス

子ども達はこれから知ろうとしている世界について興味津々です。そして残念なことに、その世界にはたくさんの危険性や危険が潜んでいます。

子どもの世話をする人は誰でも、子どもの健康と福利に責任を負っています。子ども達が確実に保護されるようにするために、チャイルドケア・プロバイダー（子どもの世話をする人）として、あなたは重要な役割を担っていることを理解しておくことが大切です。

これまでの講習では、あなたの訓練は緊急事態が発生してしまった状況の管理に重点が置かれてきました。

体の緊急事態に対するより良いアプローチ法は、それが起こらないようにすることです。

この資料は、子ども達のために安全な環境を作り、ケガや病気の発生を予防することに重点を置いたチャイルドケアのトピックが掲載されています。

担当のインストラクターは、講習中に含んだり、別途機会を作ってこれらのすべて、あるいはいくつかを提示してくれる場合もあるでしょう。以下のトピックの多く、あるいは全てをじっくりと学びたい、ご自分の施設と照らし合わせて話し合いたい方のために、この受講生資料を教材にして、「幼児教育・保育関連トピックス」コースを別途、受講できるように致しました。ご自分が働く施設の改善に関心のある方には、このコースの受講をお勧めします。時間の関係でこれらのトピックをカバーできない場合でも、ご自分で参照して頂けるように、この受講生資料にすべてのトピックを掲載してあります。

幼児教育・保育関連トピックス目次

幼児教育・保育関連トピックス	1	日常的な健康チェック	30
子どもの虐待とネグレクト（育児放棄）	2	手洗いの手順	31
乳児突然死症候群（SIDS）	6	おむつの交換手順	32
乗車中の安全	7	設備や備品の消毒	33
歩行中と自転車の安全	8	食べ物の取り扱いと栄養	34
溺水の予防	9	遠足	35
中毒の予防	11	緊急時や災害時の備え	36
のど詰まり（チョーキング）の予防	12	消火器の操作	37
転倒の予防	13	屋外の安全	38
火事とやけどの予防	14	動物の周囲での安全	40
寒冷傷害の予防	16	屋内の安全	41
予防接種	17	おもちゃの安全	44
薬品の取り扱いと管理	18	一般的な安全	45
病気の伝染要素	19		

転倒の予防

落下や転倒事故は重大なケガを招くことがあります。子どもは高い所に登るのが好きで、落下の危険をはら
落んでいる活動を好みます。幼い子どもの監督を怠らず、年長の子どものには安全な習慣を教えてください。

キー・ポイント

- 成人に比べ、子どもの頭は体に比較して大きいため、頭から落下したり転倒することが多く、時には死に至るような重大なケガを起こします。
- 階段やベランダ、バルコニーなどの周囲に子どもがいる時は、監督する必要があります。
- 家具類は状態が良く、ゆるみ等のないしっかりした状態に維持する必要があります。

奨励される行動

- 潜在的な危険を見つけ、排除することが落下や転倒のリスクを低下します。
- 階段の上や下、あるいは両方にゲート（門扉など）をつけてください。アコーディオン型は子どもが頭を挟むことがあるので避けましょう。
- 窓にロックやガードになるものをつけてください。
- 可能な場合は、窓は上の方から開けましょう。窓を下から開ける場合は、5～6 cm 以上開けないでください。
- 窓のそばに家具を置かないでください。
- 子ども用の家具が安全な規格品かどうか調べてください。
- 片側が下ろせるタイプのベビーベッドは使うべきではありません。子どもが立つようになったら、マットレスを低いものに替えましょう。身長が90センチメートルを超えたら、またはベビーベッドをよじ登って外に出られるようになったら、普通のベッドを使わせます。
- カーペットや敷物は、すべり止めがついたものを使いましょう。
- 子どもを浴槽で立たせないでください。
- 幼児用の歩行具を使わせないでください。倒れやすくケガが多く発生しています。
- 遊び場の道具の下が柔らかいことを確認してください。（例：コンクリートではなくオガクズ）
- 何かに登る遊びや活動を監視してください。
- 幼児がテーブルやソファ、ベッドなどの上にいるときは幼児を片手で支え続けてください。
- 子どもに合ったサイズの三輪車や自転車を選んでください。
- 自転車の安全教室に子どもを参加させてください。



子どもに教えること

- 三輪車、自転車、スケートボード、ローラーブレード、その他の車輪がついたもので遊ぶ時は、必ずヘルメットをかぶること。
- 浴槽で立たないこと。
- プールサイドで走らないこと。

設備や備品の消毒

常に適切な衛生手順が守られていれば、病気のリスクは大幅に低下します。

キー・ポイント

- すべての設備と備品を、水と石鹼で洗浄してから、漂白剤の溶液や、バクテリアやウイルス、あるいは寄生虫を殺せるような市販の殺菌・除菌剤で除菌してください。漂白剤の溶液は、1リットルの水に市販の液体漂白剤を大さじ1杯で作れます（1.5%溶液）。噴霧容器に入れておくと使いやすく、収納も楽でしょう。この溶液は作り置きせずに毎日作るべきものです。容器にラベルを貼り、トイレやおむつ交換場所、台所などの子どもの手の届かない場所に置いてください。
- 市販の殺菌剤を使う場合には、ラベルをよく読み、あるいはメーカーに問い合わせ、必要な効果が得られるか、あるいはどの程度の殺菌剤が必要なのかを判断してください。
- 最初に石鹼あるいは洗剤で洗います。次に消毒溶液をスプレーして自然乾燥します。溶液は毎日とり換えてください。
- こぼれた血液や血液で汚染した物体、あるいは多量の体液を洗浄する場合、定期的な清掃の時、そして伝染性の病気が流行した時の殺菌には、1リットル弱（0.95ℓ）に大さじ2、または4リットル弱（3,750cc）の水に1/2カップの液体漂白剤の溶液を使います。
- 本や紙製の備品を除き、子どもの手の届く所にあるものはすべて水洗いできるものでなくてはなりません。



奨励される行動

- 病気やケガの危険を低下させるために推奨されている洗浄・殺菌ガイドラインを遵守してください：
 - 保護用グローブを使用すること。
 - おむつの交換場所、便器、おまるは、使用する度に目に見える汚れを洗剤で洗浄すること。その後殺菌剤をスプレーして自然乾燥させます。
 - トイレと台所は日に1度以上完全に清掃・洗浄すること。床や低い棚、冷蔵庫は毎週洗浄し、殺菌すること。
 - 口に入れるおもちゃは、一人が使ったら、他の子どもが使う前に洗浄・除菌すること。病気の子どものおもちゃは別に扱うこと。ぬいぐるみは洗濯可能なものでなくてはなりません。
 - 水遊び用のプールは使用する度に洗浄・消毒すること。
 - 子ども用のベッドは毎週除菌すること。布製品は濡れたり汚れた時に取り替えること。
 - 遊び場所から食べ物やごみくずを片付けること。
 - 毎日掃除機をかけること。

動物の周囲での安全

動物との交流は子ども達にとって教育的で、心を豊かにする活動になりますが、一方で、動物は子どもの安全を脅かす危険にもなります。

キー・ポイント

- ウサギやハムスター、小鳥などのような全てのペットや檻に入れた動物が健康であり、病気を持っていないことを確認してください。
- 子どもは「遊んで」いるつもりでも、動物は防衛本能から突然子どもを襲うことがあります。
- 子どもがいる動物は、自分の子どもが危険だと感じると攻撃することがあります。
- 動物と遊んだ後はすぐに手を洗う。

奨励される行動

- 動物と子どもだけに絶対にしないこと。
- 農場を訪問した時には常識を働かせ、子ども達が動物とふれあう時にはその農場の規則に従わせてください。
- 全ての動物に敬意をもって接するように教えてください。
- 野犬や、放し飼いの動物には近づかせてはなりません。病気を持っていたり、噛みついたりすることがあります。

子どもに教えること

- 知らない犬に触る時は許可を得ること。
- 鎖でつながれている、塀の向こうにいる、あるいは勝手に走り回っている犬には近づかないこと。
- 食べている最中や眠っている犬には近づかないこと。
- 犬をからかったり、引き綱をむやみに引っ張って遊ばないこと。
- 手の甲の匂いを犬にかがせて、犬が親しみを見せたのを確認してから触ること。
- 犬同士が遊んでいる時やけんかをしている時は近づかないこと。

